

2003年度第9回物学研究会レポート

「現代中国と辺境文化」

王超鷹 氏

(PAOS中国地区主席代表)

2003年12月8日



BUTSU GAKU
物学研究会
SOCIETY OF RESEARCH & DESIGN

2003年12月の物学研究会は、PAOS中国地区主席代表の王超鷹さんを講師にお招きしました。王さんは日中の企業のCI戦略、マーケティングやブランディングの仕事をしながら、同時に漢字研究家、トンパ文字専門家として中国全土を調査しています。

今回は王さんの研究テーマである中国の文字文化を取っ掛かりに、広大な国土、多様な民族と5000年の歴史をもつ巨大な中国文化の入り口を話していただきます。その中に現代まで脈々と受け継がれる中国の人々の生活文化、思想、デザイン嗜好を探ります。

「現代中国と辺境文化」

王 超鷹 氏 (PAOS中国地区主席代表)



王 超鷹 氏

文字への傾倒

デザインのプロである皆さんを前に何をお話ししようかと大変迷いました。現在の中国は、北京や上海のような猛スピードで進歩している都市と未だに何百年も昔の生活や風習を残している地域に至る様々な顔を持っています。そのどちらもが現代中国の姿であり、中国人の心の源流です。そこで今回は、私がデザインビジネスと同じくらいに時間と力を注いでいる中国の文字文化、中でも雲南省の少数民族が受け継いでいるトンパ文字と生活についてお話する中で、中国文化の広大さに触れていただければと考えます。最初に私がなぜ「文字」に興味を持つようになったのか、その背景についてお話ししたいと思います。

私が生まれたのは1958年、中国の激動が始まろうとしていた時期でした。私の名前は「鷹を超える」と書きますが、政治に興味のあった父はこの名前に一つの願いを込めていました。それは鷹をシンボルとするアメリカ合衆国、そして中国語で鷹と同じ発音をする英国を超えるようなすばらしい中国を作るのに役立つ人間に成長してほしいということでした。文化大革命が起きたとき、父が政治的な活動をしていたせいで私の家族は激動に巻き込まれ、大変な生活を強いられることになりました。父は捕らえられ、残された家族も上海では暮らせなくなって祖母の田舎に移りました。そこで、私は文字の面白さを私に教えてくれた恩師に出会い、文字を通して中国の伝統文化に深く傾倒していくことになったのです。

トンパの文化

現在、物学研究会の代表であられる黒川雅之さんは、上海で「風 土 光 影」という展覧会を開催していますが、ここから一文字お借りして「風」という文字についてお話していきたいと思えます。「風」こそが、これからお話するトンパの文化を象徴する言葉であると私は感じています。

「風」という文字には幾つかの意味があります。自然現象である「風」を思い起こす方が多いと思いますが、中国では「美しい」「愛」「対話」といったことに関わる意味を含む文字でもあります。ここで、私がよく訪れる中国雲南省の映像を見ていただきながら、「風」を感じてもらいたいと思えます。

.....ビデオ上映

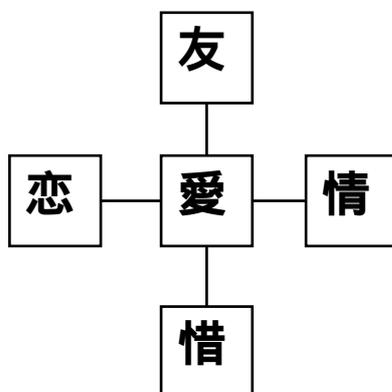
今、皆さんに見ていただいたのは中国雲南省のナシ族という少数民族が作った映像です。ナシ族の人口は約25万人ほどですが、彼らが使っている民族文字であるトンパ文字（一種の象形文字）が、今世界中の注目を集めています。この地域では先ほどの映像の中にあつた儀式を行っている智者のことを「トンパ」と呼んでいます。トンパは自然宗教であるトンパ教を司っていますが、他の宗教とは違って組織化された社会的地位や特権などは一切持ちません。彼らは普段は一般の人々のように畑仕事に従事しながら、占いや人助け、儀式などのトンパの役割をこなしています。だからこそ、トンパたちは人々の尊敬を集めることができるのです。トンパは自然発生的な存在であり、人々は自分の子どもがトンパになってくれるように願うのです。

トンパたちが暮らす雲南省は揚子江がはじめに大きく蛇行するヒマラヤ山脈の山麓に位置しており、山深く、10年前までは未開の地ともいえるような辺境の地でした。そのお陰で様々な少数民族の文化が未だに残っています。チベットに隣接した雲南省の面積は日本とほぼ同じ、人口は6千万人。500以上はあるだろう少数民族ですが、国の政策によって現在では50くらいにまとめられました。今日の話の中心となるナシ族は少数民族のひとつですが、彼らはさらに4つの部族に区分されています。しかし彼らはそれを認めていません。民族のアイデンティティや文化風習が絡むデリケートな事柄なので、彼らが納得できないのも理解できます。私がトンパ文字の研究をしている主な地域は麗江という町の周辺です。麗江周辺は標高が4千メートルから6千メートルという山がちな高地です。

表意文字である漢字とトンパ文字

トンパ文字のお話をする前に漢字の基本要素と考え方について見てみたいと思えます。

例として「愛」という文字を中心に、上下に「友」「惜」、左右に「恋」「情」という文字を配して、その関係性と文字の構成（そもそもの成り立ち）を見てみましょう。



「友」という字の源は「手が二つ重なっている」という形です。つまり「友」という字には手と手を差し伸べればそれは友達であるという意味が込められているのです。一方の対象的な「惜」という字は「自分の心を後ろに起きましよう」、「もう過去（昔）のことなんだから忘れましよう」という意味が込められているのです。「惜」を構成する「昔」という部は、太陽（日）が水に沈んでいくことを表意しています。

「情」の文字を作っている「青」の上部はもともと土から芽が出て来る、命が生まれるという意味が含まれており、下部は井戸の一番深いところからとった色を指しています。つまり「情」とは心が染められていく、男女の関係だけに限らずに自分の心がその人によって新しい色に生まれ変わるという意味を持っています。一方の「恋」という文字は、「心」を自分の前に置いた形をしています。先ほどの「情」という文字は「心(=りっしん偏)」を横に置いているのですが、前に置くほうが想いは一層深いわけです。最後に「愛」です。この文字は心を自分の真ん中に置いています。つまり相手の心を自分の中心に置くという意味です。このように見てみると、漢字は心(=りっしん偏)を後ろに置く、横に置く、前に置く、真ん中に取り込んでしまうという深い意味を文字の形そのもので表現しているというわけです。

さて、同じことをトンパ文字はどう表現しているのでしょうか？トンパ文字の「トモ(友)」は、二人の人物が楽しくお酒を飲んでいるような絵文字になります。つまり二人以上の人々が楽しく飲んだりおしゃべりすることが友であるというわけです。「セキ(惜)」は二人の人物が見詰め合っているのに、その間には障害物があってお互いの顔を見ることができないという絵文字になります。トンパ文字では漢字の「惜」よりも積極的な意味を含んでいるようです。つまり見詰め合うという前向きな気持ちの強さがこめられているのです。「ジョウ(情)」は二人の人物が手と手をとっている絵文字であり、「レン(恋)」は二人が手に手をとって同じ道を歩んでいる絵文字、「アイ(愛)」は互いに自分の心を出し合っている絵文字で表現しています。互いに自分の心を出し合うというトンパ文字の発想のすばらしさに私は感激しました。

トンパ文字の特徴の一つは色つきであることです。同じ文字でも色によって意味が変わってくるのです。基本的には2色から5色程度を使います。例えば人の体に赤をつけたら心の温かい人を現します。黄色であれば、中国では黄色は黄金やお金持ちを現しているのです。お金のいる人という意味になります。あるいは赤色のトラが書かれていれば、それは強い虎、悪者を退治する正義の虎を意味するといった具合です。またトンパの文章は私たちにとって一枚の絵のように映ります。つまり文字の配置が文脈を構成しているのです。トンパ文字は色や形、文字の配置などを読み解きながら、文章の意味を理解するという豊かな想像力に裏付けられているのです。

トンパ文字に出会って、私はそれまでの漢字やアルファベットといった文字への認識が大きく変わりました。例えば、私たちは漢字には初めから決まった「音」と「意味」があると思い込んでいます。しかし同じ文字であっても日本語と中国語では発音は違いますし、意味にもズレがあります。同じ中国語にしても北京語と上海語ではぜんぜん違った発音になります。そもそも漢字をはじめとする絵文字(表意文字)は、音よりも意味を重視する言語でした。一方、西洋のアルファベットに代表される表音文字は、意味よりも音が重要だった。そういう意味でトンパ文字はまさに表意文字そのものなのです。

ここで再び漢字を見てみたいと思います。3000年前に中国には「俗体」「正体」「雅体」という3種類の漢字が存在していました。「俗体」は現在に受け継がれている日常生活で使われている文字。「正体」は現在でいえば活字やコンピュータのフォントにあたります。そして「雅体」は美しく描かれた文字。このように3000年前の中国には文字に3つの階層が存在していました。ところが「雅体」は現代漢字には存在しません。これは当時の貴族や軍人、芸術家などの貴族階級が使っていた文字で、意味や発音よりも自分の心を込めて作った文字、美を表現するための文字だったのです。けれども「雅体」は2200年前に始めて中国統一を果たした秦の始皇帝が貴族文化は国の統治に悪影響を及

ぼすと判断し、抹殺されてしまいました。重要な書物を焚書され、多くの文人や知識人たちが抹殺されたのです。俗体と正体は今なお続いています。雅体はそのときに消滅した謎の文字となりました。私は今この雅体にとっても興味を持っていて、数少ない残片から雅体文化を再現したいと調査研究を始めています。

トンパの文化

トンパ文字に話を戻しましょう。私はトンパ文字を文化遺産としてしっかり残したいと考え、トンパたちと協力してこの9月に現存するトンパ文化の現代訳本を出版しました。それをユネスコに申請したところ、世界文化記載遺産として登録されることになりました。ここからトンパ文化全般についてお話ししたいと思います。

トンパはナシ族文化の属しています。麗江という町を歩いていると、実によくおばあちゃんたちに出会います。ナシ族の一部では今でも母系社会が残っており、通い婚形式をとっています。そのため女性は一生結婚せず、生涯で複数の男性と付き合う女性もたくさんいます。ナシ族の子どもたちの中には自分の父親を知らない子どものいるわけです。

ナシ族では女性はみんな頼もしく自分で働いて子育てをします。作物は稲作もしていますが、蕎麦が多く、他にはトウモロコシやジャガイモなども良く作られており、農作業は女性の仕事です。つまり女性が家族の大黒柱であり、その家を継承していきます。一方、男性は何をしているかというと、読書したり、ゲームに講じたり、楽器を弾いたり、詩を作ったりと文化的で優雅に暮しています。そのため総じて男性の教育レベルが高く、知識が豊富です。トンパの文字や文化は男性によって継承されています。このような男性たちは非常に優しい。そして姉妹の子どもたちの父親代わりとして面倒を見てあげるわけです。子どもにとっては叔父さんこそが父親なので、成長しても親として、師匠として尊敬し続けます。

麗江をはじめとした雲南省は高地という土地柄か、比較的戦争も少ない平和な地域であり、自然が美しく豊かで人間関係も穏やかなので人々は一般的に長寿です。女の子は13歳になると成人式を行い、親から腰に帯をつけてもらいます。この帯は親が男女交際を認めた印でもあり、男性は好きな女性に帯を送ることから、その数が多いほどその女性はモテるということを現しています。しかし、ナシ族では同時に複数の異性と付き合うことは硬く禁じています。ひとつの恋が終わったあとで新しい恋が始まるのです。

ナシ族が多く住む麗江は1996年に大地震に見舞われましたが、不思議なことに街の中心部にあった何百年も昔に作られた建物は崩壊せず、周辺のコンクリートの建物は打撃を受けて多くのけが人が出ました。街には用水路が張り巡らされ、朝には口に入るものを洗い、昼以降に洗濯をし、夜になると下水道として使うというルールが決められており、一つの用水路を合理的に使いこなしています。もちろん水質とてもきれいです。葬式は火葬もありますが、大多数はチベット密教の影響からか鳥葬です。

ナシ族は母系社会を継承し、人と人のつながり、「愛」を大切にす民族です。けれども漢民族がこの地域に入ってきて、一夫一妻制度を導入しようとしたために多くの悲劇が生まれました。母系社会と違って自由恋愛ができなくなった女性たちが、好きな男性と一緒に死ぬという純情死が多く起こったのです。私は偶然こうして命を落とした男女の葬儀に出くわしました。しかしそれは「人が風となり、人は愛とともに去っていく」という祭風として、天国で楽しく幸せに生きてくださいという

願いが込められたものでした。

最後に、彼らによって制作された映像を見ていただき、私の講演を終了したいと思います。このビデオはサムスンとキャノン主催のビデオコンクールで賞をいただきました。

以上

講師略歴

王 超鷹 氏 (おう・ちょうよう) PAOS中国地区首席代表

1958年中国上海市生まれ。子供の頃から中国伝統工芸を学び始め、30年以上にわたって研究活動が続け、本場中国でも屈指の専門知識と高度な技術を身につけ、また、文字造形に関する研究も、各界から高い評価を得ている。

日本の進んだデザインを学ぶため1987年に日本へ留学。92年に武蔵野美術大学修士課程(視覚伝達デザイン専攻)を修了し、中国と日本の文化を結ぶ架け橋として広く活躍している。1998年PAOS CIデザインネットワーク上海を創設し、今日へ至る。

現在、新聞コラムへの執筆活動や、中国美術、デザインに関する著作活動のかたわら、上海市工程技术大学客員教授、武蔵野美術大学大学院特別講師なども勤め、後輩の指導にもあたっている。CI戦略&ブランディング・コンサルタントとして活動すると同時に、工芸美術デザイナー、グラフィックデザイナー、漢字専門家、トンパ文字専門家として活躍する。

2003年度第9回物学研究会レポート

「現代中国と辺境文化」

王超鷹氏

(PAOS中国地区主席代表)

写真・図版提供

; 物学研究会事務局

編集=物学研究会事務局

文責=関 康子

[物学研究会レポート]に記載の全てのブランド名および
商品名、会社名は、各社・各所有者の登録商標または商標です。
[物学研究会レポート]に収録されている全てのコンテンツの
無断転載を禁じます。